

平成25年8月13日

石巻市議会議長 阿部 欽一郎 殿

会 派 名 フロンティア石巻  
代表者名 森山 行輝 ㊞

## 調査報告書

調査した概要は次のとおりであります。

### 記

- 1 調査者氏名 森山行輝、長倉利一
  
- 2 調査期間 平成25年7月22日から  
平成25年7月25日まで 4日間
  
- 3 調査地及び調査内容
  - (1) 北海道苫小牧市  
すくらむ苫小牧について
  
  - (2) 北海道伊達市  
伊達ウェルシーランド構想について
  
  - (3) 北海道江別市  
複合福祉施設について

### 4 目 的

- (1) 北海道苫小牧市  
すくらむ苫小牧について  
「スクールソーシャルワーカー（SSW）活用事業」と「子どもの健全育成サポートシステム」を中軸とした、児童生徒の「いじめ」、「不登校」、「暴力行為」及び「児童虐待」などの問題に対応する「総合的な連携支援ネットワーク」に取り組んでいる。「す」は **Support**（支援・援助）、「く」は **Cooperate**（連携・協力）、「ら」は **Relationship**（結び付き）、「む」は **Make-up**（構成）、それぞれの頭文字を繋げて「すくらむ」と命名している。  
本市においても児童生徒の「いじめ（暴力行為含む）」や「不登校」等への対応について、いじめ・生徒指導問題対策事業で「ストップいじめ石巻市子どもサミット」等に取り組んでいるが、先進地の更なる官民との連携について学び、今後の事業推進の参考とする。

## (2) 北海道伊達市

### 伊達ウェルシーランド構想について

伊達市は「北の湘南」と呼ばれ、快適居住地と知られている。この環境を生かし、高齢者や障害者を積極的に受入れ、新しい福祉の考え方を模索、実践した都市再生事業で少子高齢社会の中で、高齢者のための新しい「生活直結型サービス」を民間事業として創出することで、安心・安全に暮らせるまちづくりと地域経済の活性化を目指した官民協働のまちづくりである。

本市に限らず、全国的に少子高齢化社会への対応は大きな課題となっている。高齢者や障害者の生活しやすい環境づくりを官民連携で実施していることは非常に興味深いものがある。また、高齢者等の受入れによる都市再生事業への取り組みを学ぶことで視野を広げ、今後の事業推進の参考とする。

## (3) 北海道江別市

### 複合福祉施設について

江別市では新総合計画に基づき、需要に見合った施設整備や適正配置、さらに高齢者保健計画を踏まえて、人口増加が予測される野幌地区に1階が保育園、2階が高齢者福祉施設（デイサービス・在宅介護）となる複合施設を公設民営方式で運営し、双方の交流も盛んに行われている。

本市においても少子化、高齢化、核家族化が進む中で、児童と高齢者の交流の場が持つ大きな意味を理解している。江別市の取り組みを学び、「みなと荘」や「うしお荘」の効果的な利活用を含め、今後の事業推進の参考とする。

## 5 調査概要

### (1) 北海道苫小牧市

この事業は、文部科学省、北海道教育委員会の補助事業で苫小牧市の他25自治体で取り組んでいる事業であるが、この中で特に成果を上げている苫小牧市を選び調査するものであり、平成20年度に事業を立ち上げ、支援・援助を学校、家庭、地域、児童生徒との連携を図りながら、事業を実施している。

スクールソーシャルワーカー活用事業は、平成25年度は8名を配置し、内訳はスーパーバイザー（SV）1名、スクールソーシャルワーカー（SSW）5名、不登校問題担当1名、カウンセリング担当1名である。

担当者の身分は非常勤特別職で市教育委員会に配置し、市内の学校への派遣や関係機関とのコーディネートに当たっている。年に2回程、関係機関と会議を開催し、連携、協力を強化し成果を上げている。関係機関として、警察署、児童相談所、民生児童委員会、保健所、保護司会、市担当部課等が連携、協力して事業を推進している。

### (2) 北海道伊達市

少子高齢化が進む中で、高齢者が安心・安全に暮らせるまちづくりを進めると共に、高齢者ニーズに応える新たな生活産業を創出し、働く人達の雇用を促進して、豊かで快適なまちづくりを目指す取り組みである。伊達ウェルシーランド構想の目的は、高齢者を対象とした新しい生活産業によるまちづくりである。

①高齢者が住んでみたい町

伊達市内及び近郊だけでなく、北海道ひいては全国各地から高齢者が住んでみたいと思う魅力ある町。

②女性、若者の働きがいのある町

新たなサービスの導入により、「コミュニティビジネス+新たな雇用」が創出され、働く女性や若者の流入が進む活気ある町。

③働く人が住みたい町

働く人たちが住みたいと思う安心・安全な町づくりを目指している。

(3) 北海道江別市

江別市は、江別地区、野幌地区、大麻地区の3地区で構成されている。江別地区に「いきいきセンターわかくさ」、大麻地区に「いきいきセンターさわまち」が設置されている。

この度の現地調査は、野幌地区の江別市あかしや保育園（1階部分）、デイサービスあかしや、在宅介護支援センターあかしや（2階部分）を視察した。この施設は、平成9年10月に開設し、平成10年4月より民間委託しており、1階部分を「江別わかば福祉会」、2階部分を「財団法人江別在宅福祉サービス公社」にそれぞれ委託している。

## 6 所 感

(1) 北海道苫小牧市

スクールソーシャルワーカーであるが、週3回勤務で家庭訪問や巡回、警戒等に当たっているが学校長や教職員の転勤、教職員の繁忙のため、「まかせきり」になる事が多いようである。また、年間報酬が1,004,400円（日額8,100円）で生活給としては不足であり、人材確保に頭を痛めている。

苫小牧市には小学校24校、中学校15校の計39校に9,000人の児童生徒が在籍しているが、内3%の300人が不登校との事である。生活保護家庭における経済的家庭環境に起因する不登校が多い。平成25年度から不登校相談会支援チームを立ち上げ、1人の子供に関わる組織として、不登校を無くす活動を展開している。

(2) 北海道伊達市

仙台藩の亘理伊達家主従が集団移住して開拓し、伊達市と命名したのが由来である。3.11の震災により、宮城県亘理町の苺栽培農家が被災し、伊達市が支援事業として市内に移住させ、住家や農地、ビニールハウスを提供し、苺栽培を続けている農家が6世帯ある。亘理町と姉妹都市を結び、友好都市として強い結びつきのある市である。

市長は議長を経験し、現在4期目の政治歴が永く、発想豊かな方である。この伊達ウェルシーランド構想も市長の発案で市民を巻き込み、リーダーシップを発揮し、全国から注目される伊達市を築いている。

### (3) 北海道江別市

少子化、高齢化が進む中で児童と高齢者が交流する世代間交流は、大きな意味を持つが、実際には指定管理者がそれぞれ違うことから、連携が取れていない現状である。発想としては素晴らしいが、現場では目的が違うので、独自の事業をそれぞれが展開している。同じ建物を1階部分と2階部分に分けて使用しても、お互いの交流が図られなければ、むしろ独立した建物で事業を実施した方が施設の管理面からも良策ではないかと思う。

## 7 調査による石巻市への政策提言等について

### (1) 北海道苫小牧市

すくらむ苫小牧事業の総額予算は9,332,000円（内道補助1,353,000円）である。1千万円にも満たない市独自予算で、多くの関係機関を巻き込み、成果を上げている事業と感心した次第である。いじめ、不登校、児童虐待等の児童生徒を取り巻く問題に対して、児童生徒、保護者、学校、関係機関などと連絡調整を行い、問題解決に向けて、本市でも事業を展開すべきと思う。

### (2) 北海道伊達市

伊達ウェルシーランド構想の伊達版ライフモビリティサービス（愛のりタクシー）事業は本市でも実施可能事業と思われるので、参考にすべきである。また、「心の伊達市民」住民登録制度を実施しており、この事業も参考にすべきと思う。

### (3) 北海道江別市

複合福祉施設等の計画があるのであれば、実際に現地調査をし、良否の判断をすべきと思う。

## 8 調査経費

268,280円

## 9 添付書類

別添資料のとおり